

資料番号	3
------	---

令和3年9月7日
 課名 地域政策局
 平和推進プロジェクトチーム
 担当者 課長 栗原
 内線 2366

公開セッション「核兵器廃絶と持続可能な未来について考える ～ひろしまからの呼びかけ～」の開催結果について

1 要旨・目的

被爆76年を迎えた8月6日に、公開セッションを開催し、登壇者及び視聴者が、持続可能な未来の実現における核兵器廃絶の意義と、「ひろしまイニシアティブ」の実現について考える機会とした。

2 現状・背景

本県は、今年3月、核兵器のない平和な世界の実現に具体的に貢献することを目指す「ひろしまイニシアティブ」の骨子を発表した。

今後、この「ひろしまイニシアティブ」の推進に向け、国際社会への働きかけを強化していく必要がある。

3 概要

(1) 実施主体

広島県、へいわ創造機構ひろしま（略称HOPe）、国連軍縮部、国連訓練調査研究所（ユニタール）、（一社）国連ユニタール協会

(2) 実施日

令和3年8月6日（金）

(3) 場所

エソール広島等からオンライン配信（日英同時通訳）

(4) 視聴者

149名

(5) 実施内容

ア 特別セッション（国連及びひろしま）2:00 PM - 3:30 PM

- ・国連事務次長 中満泉氏
- ・王立国際問題研究所（チャタムハウス）国際安全プログラムディレクター パトリシア・ルイス氏
- ・広島県知事 湯崎英彦氏
- ・ユニタール総代表 ニキル・セス氏（モデレーター）

イ セッション2（経済界）4:00 PM - 5:00 PM

- ・Microsoft社 デジタル外交シニア・ディレクター カジャ・シグリック氏
- ・㈱テレビ新広島 代表取締役社長 箕輪幸人氏
- ・日本生活協同組合連合会 副会長 新井ちとせ氏

ウ セッション2.5（特別対談）5:00 PM - 5:30 PM

- ・㈱Deportare Partners CEO 為末大氏（国連ユニタール親善大使）
- ・ユニタール 持続可能な繁栄局長・広島事務所長 隈元美穂子氏

エ セッション3（青少年）6:00 PM - 8:00 PM

- ・㈱Deportare Partners CEO 為末大氏（国連ユニタール親善大使）
- ・県内外の高校生，大学生，大学院生

4 その他（各セッションでの主な発言）

(1) 特別セッション（国連及びひろしま）

（知事）

- ・気候変動と同じで、核兵器の問題は至急対処しなければならない。
- ・いろいろな人が参画することによって、フレッシュなアイデアが生まれると思う。
- ・今後、核兵器廃絶を、国連の中核的なアジェンダにしたい。

（パトリシア氏）

- ・「ひろしまイニシアティブ」は、本当に良いイニシアティブになると思う。「ひろしまイニシアティブ」に必要なことは、核抑止を肯定するグループと、核廃絶を進めていくグループの間で対話が行われるようにすることである。

（中満氏）

- ・包括的な安全保障を考えるべき。COVID-19 でわかったが、核兵器などがあっても、人の命は守れない。
- ・若者、特に若い女性が、多数、交渉の現場に参加することが重要。



(2) セッション2（経済界）

（カジャ氏）

- ・サイバー攻撃から、市民を守るため、強制力をもつ国際的な法的規範が必要。

（新井氏）

- ・国際社会に日本の市民の声を届けることを大切にしている。

（箕輪氏）

- ・対日感情があまりよくない国や地域の人であっても、原爆がもたらした被害の実態だけは理解してもらえそうな番組にする必要があるのではないかと考えている。



(3) セッション2. 5（特別対談）

（為末氏）

- ・人間の行動を変えるためには納得することが必要。そのためには対話や事実を伝えていくことが必要。自分達に、いかに共通点があるか、同じ船に乗っている存在であるか感じる事が大切。
- ・スポーツは、人の心を揺さぶることができる。
- ・スポーツそのもので、核兵器の問題に、アプローチはできないが、相手と自分に、同じように共感をする部分があるということをもとに対話が行われると、対話の内容も違ってくるのではないかと考えている。



(4) セッション3（青少年）

（参加者から、同世代に向けて）

- ・核兵器は、決して、他人事ではなく、現在も続いている私たちのことであると感じて欲しい。遠い過去の出来事ではなく、これからも続いていく私たちに関わる事。そして、考えて欲しい。今をより良くするためには、どうしたら良いか。これから生きていく私たちは、これからを変えていくことができる。

